

国際開発協力論Ⅱ

元田結花

国際開発協力論Ⅱにおいても、国際開発協力論Ⅰと同様に、オンデマンド形式の授業運営であったことを配慮して、筆記試験は実施せず、主に3つの小レポートの内容を踏まえて成績評価を行った。レポートはいずれも、教員が提示した「問い」について、授業内容を踏まえて、履修者の考えを2,400字程度で論述するものであった。スケジュールとテーマ、点数配分は以下の通りである。

課題番号	課題 提示日	テーマ	題材 (関連する授業回のレジュメ・配布資料・解説動画に加えて)	締切	点数 配分
1	10/13	外部者が途上国に介入する際に求められる視点について、各自の考えをまとめる	DVD（制作会社が動画をYouTube上に公開） 教員が用意したDVDの内容についての解説動画	11/10	31点
2	11/24	市民社会支援を如何に評価すべきなのかについて、各自の考えをまとめる	DVD（制作会社が動画をYouTube上に公開） 教員が用意したDVDの内容についての解説動画	12/22	31点
3	12/22	全14回分の授業の内容を踏まえ、ガバナンス支援の基礎となっている考え方について、各自の考えをまとめる	学術論文	1/30	33点

3つの小レポートに加えて、全14回の授業を通じて、特に興味を持ったこと・新たに学んだことについて、200字程度でコメントを用意し、第3回課題レポートと合わせて提出するよう求めた。こちらについては、条件に合致する形で提出する限りにおいて、5点を必ず付与した。

各レポートの質問の趣旨や、その質問に答えるために求められる知見については、該当する授業回にてレポート課題を提示した際に、特に視聴するように指定した解説動画において十分に説明してあるので、ここで敢えて説明することはしない。換言すれば、指示に従って、関連する解説動画を視聴していれば、出題の趣旨に即したレポートが執筆できるようになっているので、労をいとわず指定された解説動画を視聴することが求められる。

また、受講生が、正しく出題意図を理解し、授業で学んだ内容を適切に援用してレポートを用意できたかどうかを確認できるよう、希望者には、Zoomを用いる形で、提出期限後にフィードバックを与えることとした。実際に個別に指導を受けた学生は、この機会を活用して、出題意図を確認するとともに、関連する授業内容を改めて学び直すことにつながった。

第1回・第2回課題レポートについては、問いで要求された各点に沿った形で、指定した題材となる動画および該当する授業回の解説動画から入手できる情報を、的確に整理できているものが多かった。しかしながら、第3回課題レポートについては、該当する授業回の解説動画から入手できる情報を考慮することなく、指定した学術論文の内容のみに基づいて書かれたものが散見された。解説動画が用意されているのには理由があり、指示された解説動画を視聴した上で課題レポートに取り組む必要性を改めて指摘しておきたい。また、解説動画で示された見解が、必ずしも題材と

して指定した論文と同様の見解に基づいているとは限らないことに注意されたい。両者を見解を理解し、必要に応じて比較した上で、受講生の考えを述べることが求められる。

なお、受講者自身の見解については、「依拠すべき立場」があらかじめ決まっているわけではない。根拠を持って提示されているかどうか重要である。この点についても、大半のレポートは合格点に達していたと言える。

授業のコメントについては、どのような内容に受講生が関心を持ったのかが率直に書かれており、教員としても興味深く読んだ。